

# アカゲラ通信

2018年12月号  
(公財)札幌市公園緑化協会 旭山記念公園管理事務所



## 第2駐車場は冬期間閉鎖します

旭山記念公園第2駐車場は、冬期間除雪車両駐車場となるため、2018年11月30日をもって冬期間閉鎖となり、一般のご利用が出来なくなりました。ご了承ください。

再オープンは2019年4月を予定しております。

## ところで、シマエナガの「シマ」って・・・！？

今年もシマエナガの観察や撮影にいい時期が来ました。

ところでシマエナガ、なぜ「シマ」とつくのでしょうか？ 体に「シマ」縞模様があるわけではないですよね。本題の前に、シマエナガは、北海道だけに生息するエナガの亜種名です(正しい表記は亜種シマエナガ)。「亜種」とは、同じ種ではあるものの、生息する地域が隔てられて基本種との交流がなくなり、身体的特徴などが異なったまま独自に進化した、基本種とは別の個体群のことを指します。

生物は基本的には違う種の間では繁殖はできませんが、違う亜種の間では繁殖が可能です。

閑話休題、シマエナガの「シマ」…実は、「縞」ではなく「北海道」の意味なのです。

その昔、本州以南の人々が、離れた「島」である北海道を「シマ」と呼び、そこにいる本州以南とは違う生物種に「シマ」という言葉をつけて区別しました。

日本では北海道だけで繁殖するシマフクロウ、シマアオジ、シマセンニュウの「シマ」も同じです

ただしこれらはシマエナガとは違い、亜種ではなく独立した種の名前です(アオジとシマアオジは別種)。

しかし一方、シマノジコ(ホオジロ科、北海道では迷鳥)、シマアジ(カモ科)など、ほんとうに「縞」を意味する「シマ」が名前についた鳥もいます(余談ですがシマアジは魚のアジ科にも同じ名前の種があります)。

哺乳類のシマリスは体の縞模様から「縞栗鼠」ですが、偶然にも  
北海道だけに生息しています。

そういうえば、シマフクロウも胸から腹に「シマ」=縦縞模様がありますが、  
こちらは「縞模様」からとられたわけではありません。

ともあれ、今や北海道にわざわざ見に来る人がいるほど人気者となった  
シマエナガは、その名前でもまた北海道を代表する野鳥だったのです。



## その鳥、誰も見ていないかもしない

11月下旬、旭山記念公園内でミヤマホオジロの写真を撮影した方がいらっしゃいました。

ミヤマホオジロ、旭山では11月と3月から4月にごく短い間現れます、今年はその方が写真を撮るまでは秋の観察情報がなく、その日や翌日以降もその方以外に見たという話を聞いていません。

2年前の11月、カヤクグリを撮影しましたが、その時も他に旭山でカヤクグリを見た人はいませんでした。

このように渡り鳥は、ほんのいっときだけ旭山を訪れ、誰かひとりだけに  
見られてすぐに去って行くこともあります。

野鳥観察をする人が増えた今は情報も増えてきていますが、もしかして、  
知らない鳥が、誰にも見られずに通り過ぎている可能性もあるのです。

だから、野鳥観察は楽しくて奥が深いでしょう。 →ミヤマホオジロ雌(別の年に撮影)

12月はまだ「誰も見ていない渡り鳥」を見られる可能性があります。



## 「野鳥観察会」とスノーシュー貸出

●「旭山野鳥観察会」毎月第2土曜日開催、今月は12月8日(土)、来月は1月12(土)です。

8時開始、参加費100円(保険代として)、双眼鏡無料貸出します。

●旭山記念公園森の家では、今年度も、2019年1月からスノーシュー無料貸出を行います。

貸出料金は無料です。金土日祝日の10時から15時までの間、時間無制限です。ぜひご利用ください！

# 2019年 旭山の初日の出

毎年元旦は初日の出を拝む人で賑わう旭山記念公園。

2019年1月1日は、午前5時に駐車場開門となります。

当日は警備員を配置しておりますので、指示にしたがって車をとめてください。

6時45分を過ぎると道路には駐車場に入りきれない車の列ができますが、近隣の皆様のご迷惑となるため、路上駐車は絶対におやめください。

その他、積雪状況や当日の天候により階段や園路の一部が通行止めとなる可能性もありますので、元日にはじゅうぶんお気をつけください。

2019年元日の札幌の日の出時刻は7時6分です。

昨年は約200人が初日の出を待っていましたが、雪混じりの天気で初日の出は拝めませんでした。



2018年元日、日の出時刻5分後の様子

## 12月の野鳥トピックス

野鳥についての詳しい情報はホームページの野鳥情報をご覧いただけます。

★冬の鳥①=今年は冬の鳥たちが軒並み少なくなっています。秋は暖かかったからか、冬鳥の繁殖地で食料が多くて渡って来ていないからなのか。ツグミも11月に入ってようやく来ましたが、いても数羽。しかし11月下旬になり学びの森付近に1羽が滞在していてよく見られます。マヒワも少なく、ベニヒワは観察情報なし。ウソもたまにしか見られません。シメは比較的よく見られますが例年よりは少ない。ヒレンジャクは11月中に3回だけ現れましたが、いずれの回も翌々日までにいなくなりました。

★冬の鳥②=カケスはまだ観察されず。キバシリはそこそこ見られます。

★キクイタダキ=こちらは逆に例年より早くから現れ、観察機会が多くなっています。すぐには見られなくても、園内の常緑の松を時間をかけて巡っていけばだいたい見られます。

→キクイタダキ、時には落葉広葉樹にとまる

★クマゲラ=森の家の周りで声や姿が観察されることが多くなりました。

★オオアカゲラ=森の家近くでまだ雌の個体がよく見られます。

★シマエナガ=広範囲を周りはじめたようで森の家周辺から双子沢川周辺はもちろん、第1駐車場から噴水広場にかけての辺りでも見られる機会が増えました。

※森の家では今年も「シマエナガ出没マップ」を毎週更新し、掲示板に貼り出しています。



## 旭山ネイチャーフォトミニギャラリー 2018年12月



●ノスリとハシブトガラス

2018年11月8日撮影

ノスリは旭山では秋に見られことが多いですが、この日は渡りのためか4羽が集まっていました。



●ツグミとアズキナシの実

2018年11月29日撮影

アズキナシの実が豊作。ツグミが食べに来ましたが、他の鳥たちはまだ食べには来ていません。



●イチイの実を食べるエゾリス

2018年12月1日撮影

エゾリスがイチイの実を次から次へと食べ、まさにほおばっていました。赤い外側だけ食べるようにです。



●11月のアキアカネ

2018年11月8日撮影

今年は秋が暖かく、アキアカネも例年より遅くまで見られました。この2日後の11月10日が「終見日」でした。

## 編集後記

12月1日、自然素材を使ったクリスマスリース作り講習会が行われました。

参加された方は、クズの輪に松ぼっくり、色とりどりの木の実、緑の葉などを思い思いに飾り付けて、自分だけのクリスマスリースができました。

欧米ではリースは、クリスマスが終わって、年明けまで飾るのが慣例だそうです。



公式サイト

「アカゲラ通信」 第58号 2018(平成30)年12月7日発行

発行：(公財) 札幌市公園緑化協会 旭山記念公園管理事務所

住所：〒064-0943 北海道札幌市中央区界川4丁目

連絡先：電話011-200-0311 (土・日・祝日10時~16時) FAX011-200-0351

<http://www.sapporo-park.or.jp/asahiyama/>